

基本構想（素案）の基本理念の再検討について

新

第1節 まちづくりの基本理念

○「コンパクト」の視点

大阪都心部や関西国際空港への近接性ととも、平坦で小さな市域であるがゆえに市民や団体・事業者、行政の間の距離が近いことが、本市の個性であり特長です。

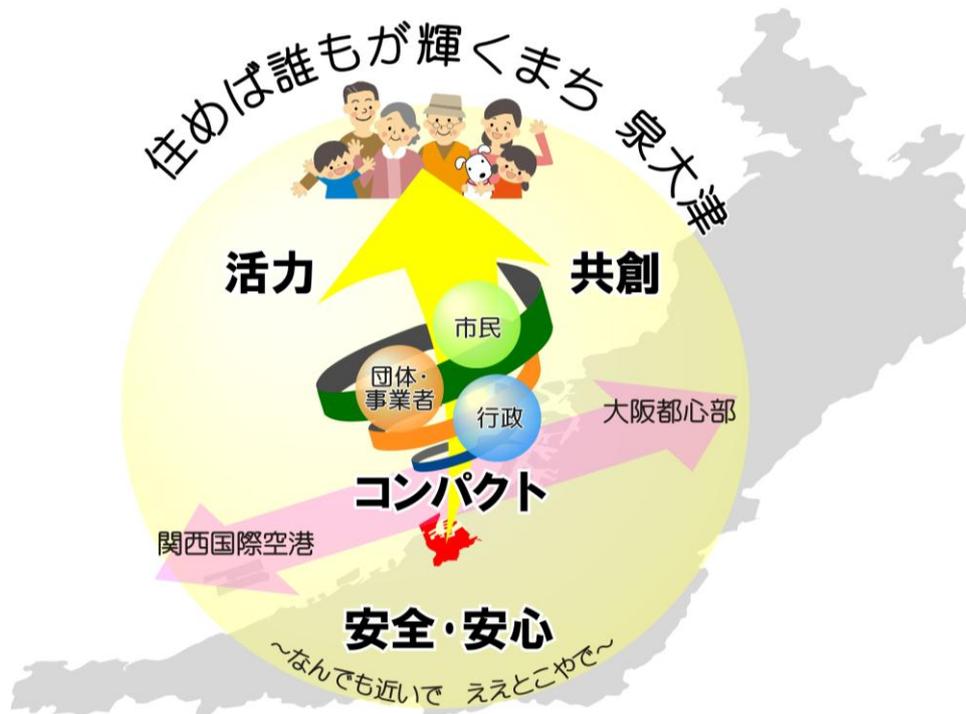
距離の近さは、利便性の高さや関係性の緊密さを生み出し、それが人口の流入や定住、人々の活発な交流の創出につながってきました。このようになんでも近いことが生み出すコンパクトさは、まとまりよく充実したまちに発展してきた本市のかけがえのない資質であり、将来にわたり、これを活かしたまちづくりを基本とします。

○「活力・共創」の視点

誰もが輝くまちとして、市民が主体となったまちのにぎわいづくりや、企業や大学、近隣自治体と連携した、地域や産業活性化に向けた取組を進めます。また、市の特性や利点をさらに伸ばし、これらを広く情報発信するなど、市民と行政がともに手をとりあい、高め合うことで、新しい価値を創造し、活力あるまちを創り上げることを基本とします。

○「安全・安心」の視点

泉大津がええところであるために、市民の生活や活動を支える基盤として、市民が安全に安心して健やかに暮らし、活動することのできる環境の確立を基本とします。



旧

第1節 まちづくりの基本理念

○「活力・共創」の視点

誰もが輝くまちとして、市民が主体となったまちのにぎわいづくりや、企業や大学、近隣自治体と連携した、地域や産業活性化に向けた取組を進めます。また、市の特性や利点をさらに伸ばし、これらを広く情報発信するなど、市民と行政がともに手をとりあい、高め合うことで、新しい価値を創造し、活力あるまちを創り上げることを基本とします。

○「コンパクト」の視点

なんでも近いまちとして、大阪都心部への近接や市域がコンパクトであることに加え、一人ひとりの市民同士や地域・行政・事業者などの関係が近いことは、本市の個性です。距離の近さは利便性の高さに、関係の近さは様々な交流の創出につながり、それらが共鳴することでまちが発展してきました。ハード・ソフトともにコンパクトであるということは優れた利点であり、この双方を活かし、高機能なまちを形成していくことを基本とします。

○「安全・安心」の視点

泉大津がええところであるために、市民の生活や活動を支える基盤として、市民が安全に安心して健やかに暮らし、活動することのできる環境の確立を基本とします。

